

春シラス漁の漁況経過と見通し

1. 春シラス漁 (2~7月) の漁況経過

今年の漁獲量は、漁期はじめの2月に52トン、3月に0.3トン、4月に23トンと低調で推移しましたが、5月上旬から増加し、5月は26日までの速報値で332トンとなっています(図1)。

また、シラスの種組成は、漁期はじめ(2月)はカタクチシラス主体のウルメシラス・マシラス混じりでしたが、漁獲量が増え始めた5月はカタクチシラスのみとなっています。

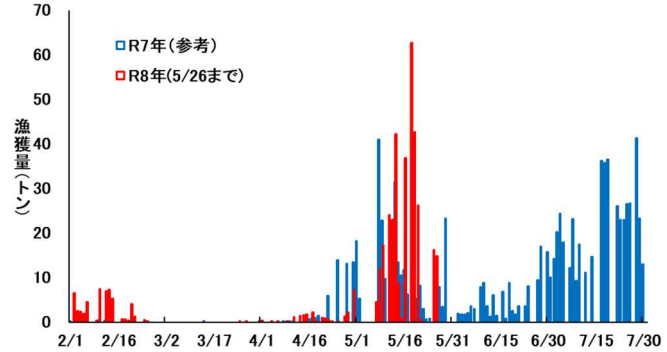


図1 R7・R8年シラス水揚げ量の日別推移

2. 海況の現況と6月の予測

現在、本県沿岸域では海面付近においては黒潮続流からの暖水波及が生じていますが、底層においては北から冷水が差し込み始めています(図2)。6月は、海面では暖かい海況が継続するものの、底層における冷水の差し込みの影響により10m以深の水温は平年より低め傾向となると考えられます。

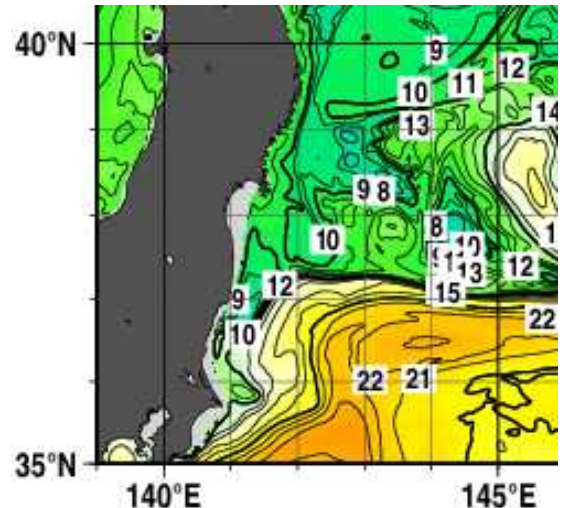


図2 50m 深水温図 (5/25)

気象庁「日別表層水温」(https://www.data.jma.go.jp/kaiyou/data/db/kaikyo/daily/t100_HQ.html?areano=1&stryy=2026&strmm=05&strdd=25) を加工して作成

3. カタクチイワシ卵の分布

5月の調査船「せんかい」による沿岸部の調査では、広範囲で多くのカタクチイワシ卵が確認されている(図3)ほか、成魚の成熟度も高くなっています。現在確認されている卵は、7月中下旬に新規群として漁獲対象となる可能性があります。

4. まとめ

今年の春シラス漁は、漁期はじめは低調に推移した後、5月上旬から好転しています。6月には冷水の影響を受け再び低調となる可能性があります。5月に広範囲で多くのカタクチイワシ卵の供給が確認されていることなどから、7月中下旬以降漁獲量が増加することが期待されます。春シラス漁(2~7月)の漁獲水準は「中漁」(360~1,540トン)になると予測されますが、海況が再び暖かくなり7月の加入が早まれば「好漁」に転じる可能性もあります。

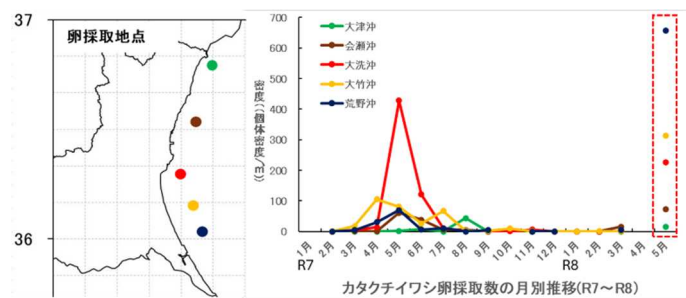


図3 「せんかい」卵調査結果

(回遊性資源部 長谷川 拓哉)